

厚木愛甲環境施設組合、焼却灰資源化を視察



東京たま広域資源循環組合全景。建物がエコセメント化施設、下が最終処分場。

厚木愛甲環境施設組合は平成16年に厚木市・愛川町・清川村のゴミ処理を広域的に行うために設置されました。ごみの焼却・資源化・最終処分について計画を立て、経費は各市町村の分担金で賄っています。組合議会は市町村から議員が出ています。

当初の計画では、焼却場を厚木市が建設、最終処分場は清川村で建設することになっていました。しかし、平成27年4月に、ゴミ処理計画が変更され、焼却灰を全量資源化して最終処分場は作らないことになりました。

厚木愛甲環境施設組合議会で11月4日（金）、焼却灰を全量資源化している「東京たま広域資源循環組合」を視察しました。釘丸久子議員が参加しました。

エコセメントで処分場延命

視察先は東京都日の出町にある「東京たま広域資源循環組合」です。多摩地域の26市町で構成しています

が、日の出町は入っていない。対象人口は407万人、ごみの総量は年間約百万トンです。かつては焼却灰と不燃物を埋め立てていましたが、処分場の延命策としてエコセメント事業を平成18年に開始しました。

26市町から持ちこまれた

焼却灰を1350度以上の高温でさらに焼成し、石灰石を加えてエコセメントとします。平成26年度の焼却灰受入は7万8800トン、エコセメント出荷量は11万8千トンです。道路の敷石やU字溝などに加工、「エコタロー」の



エコセメント製品は市場価格より高額で販売先（市町村など公共が多い）を考える必要があります。埋め立てを終了した最終処分場は安全が確認されるまで長期間の管理が必要です。最終処分場を建設しないことによる経費の削減は大きく、視察した施設はその先進事例として大変参考になりました。

話題あれこれ

12・13日、晴天の下

大道芸・物産展に14万8千人

厚木市主催の「にぎわい爆発！あつぎ国際大道芸2016」が、11月12・13日の2日間、晴天の下、開催されました。12日（土）が7万5千人、13日（日）が7万3千人の計14万8千人が来厚し、秋のひとときを楽しみました。



12日11時の厚木公園での開会セレモニーの後、ステージでニュージラランド・マオリ族の民族舞踊「ハカ」。厚木市は東京オリピックでのニュージラランドのホストタウンに登録。「ハカ」を生で見るのは初めてで、肌の色



右：ハカの迫力に会場が圧倒されました
左：ミニ消防車で消防服を着て記念撮影



に関わらず、胸や腿を掌でたたくと、赤くなるのがよくわかって、痛くないのかしらと余計な心配も。

カンナ削りに挑戦。

同日開催のイベントは、あつぎグルメフェア、第7回あつぎ消防団ふれあい広場、まち元気物産フェア、第35回あつぎ技能祭、スーパークイズランドの他、南口ホ

コ天まつり、商工会議所女性会のバザー&バナナのたたき売りもありました。昨年は二日目雨が雨でしたが、今年は快晴で暑いほど。気持ちと一緒に財布の紐も緩んで、地域活性化に貢献した方も多かったのではないのでしょうか。イベントで「あつぎ」を知ってもらい、来てもらうことで、日常的にも来厚者が増えるといいのですが。

南毛利公民館シニアフェスティバル
公民館は地域の絆づくり

また、12日には9時半から南毛利公民館で地域のシニアフェスティバルもあり、芸能発表部門の踊りも楽しめました。



シニアの皆さんが実に楽しそうに発表している姿に、こちらまで楽しくなります！
公民館は地域の元氣、絆づくりの源泉です。

議員団、この二日間は…

日本共産党は連日各地のイベントや学習会に参加しています。

12日（土）には、朝の南毛利シニアフェスティバル開会式に始まり、11時にはにぎわい爆発！あつぎ国際大道芸2016開会セレモニー。午後2時から依知地域で議会報告会（日本共産党議員団独自のもの）、その後は、市議会の議会報告会の準備をしました。

13日（日）は、朝10時から伊勢原で公民館についての学習会打合せ。厚木市に戻って、消防団ふれあい広場へ。物産フェアで昼食を兼ねてお買いもの。午後は会議、その間に生活相談。夜には伊勢原市で、伊勢原・秦野市の公民館有料化問題学習会。

忙しい毎日ですが、市民とのふれあいや学習ができて充実しています。